

## エコマネー勉強会 報告書

瀬戸川フォーラム (藤枝市)  
代表 山田 辰美

1. 日 時 平成17年2月26日 土曜日 13:00~16:30
2. 場 所 藤枝市役所 5F 大会議室
3. テーマ ふるさと活動をより深めるために
4. 参加者 地域活動団体や行政、県・市議会関係者  
ボランティアなど35名

### 5. プログラム

#### (1) 基調講演

「エコマネーってな~に？」

富士常葉大学 流通経済学部 教授 酒井直彦氏

#### (2) 活動報告

「エコマネーどんぐりがつなぐふるさと活動」

瀬戸川フォーラム 代表 山田 辰美

(富士常葉大学 環境防災学部 助教授)



### 6. 開催趣旨

ふるさとの野山に群れて遊ぶ子どもたちを見かけなくなって久しい。心身ともにたくましく感性豊かな子どもたちを育てるために、地域固有の自然環境を生かしたふるさと活動を支援する一つの取り組みとして、あたたかい通貨「エコマネー」を普及するために今回の勉強会を開催しました。

### 7. 基調講演レジュメ 「エコマネーってな~に？」 酒井直彦氏

酒井先生には、「エコマネー」の仕組みと実践事例、意義について分かりやすくお話をさせて頂きました。



「エコマネーって？」

地域やある共同体で発行するお金

その共同体の中で流通するお金

思いやりや感謝の気持ちを反映させる

「あたたかいお金」

「エコマネーの目的」

「人間関係の信頼から出発し、それをより大きく確固とした関係に築き上げる」

メンバー(地域住民)間に信頼関係をつくる

取引活発化 信頼関係は拡大 地域活性化

「富士常葉大学の事例」 ちゃちゃ

<背景(大学キャンパスの特徴)>

構成員が学生、教員、職員と限定

教育研究機関として役割が明確で共有

直接的な市場メカニズムの価値で計りにくい価値追究の場  
市場的な利益に還元することは排除すべき

<キャンパスの傾向>

人間関係が極めて限定的

グループ外とは会話のきっかけが少ない

時間的余裕の欠如

アルバイトに求められる責任が増加の傾向

IT（携帯・パソコン・メール等）による伝達手段の多様化にも拘らず乏しい  
交流 的確な表現や基本的な会話の欠如

<キャンパスでの使い方>

Aタイプ：依頼事項の実現手段（本来の使い方）

「してほしいこと」「してあげられること」のメニュー表に基きサービスを交  
換し「ちゃちゃ」を支払う

Bタイプ：他者に対する思いの伝達表現手段

（コミュニケーションツールとしての使い方）

周囲の人に対する感謝、お詫び、励まし、称賛等の気持ちを表現し伝達する。

「全国の実例紹介」

|              |                  |         |         |
|--------------|------------------|---------|---------|
| ・川口市         | 「キューポラ」・早稲田・高田馬場 | 「アトム通貨」 |         |
| ・姫路市（姫路工業大学） | 「千姫」             | ・宝塚市    | 「ZUKA」  |
| ・多摩市         | 「COMO」           | ・大和市    | 「LOVES」 |
| ・世田谷区        | 「でん」             |         |         |

他の事例から学ぶものとして、共通なものとして以下を上げられていました。

緩やかな結びつきの志向

適正な人間関係の距離の保持

「縁側の関係」「しがらみ町内会に風通し」

長期的継続の重要性

短絡的な効果より「きっかけ作り」。人とのつながりの拡大自体に価値を置く。

エコマネー・地域通貨は市場メカニズムの外側から人々の相互扶助、信頼関係、ネットワークの形成という「目に見えないもの」を地域に根付かせ、蓄積し、発展させる力を持っている。「社会関係資本」の実現手段として位置付けられ、「持続可能な発展」への大きな可能性を秘めていると締めくくられました。

酒井先生の講演で一番印象に残ったこととして「社会関係資本（ソーシャルキャピタル）」の重要性と言うことです。これは、新しい「資本」概念 社会に存在する個人や集団内のネットワークやそこに存在する「信頼」や規範といった「目に見えない」ものに着目し、これらを社会の成長、発展、開発にとって有用な「資本」であるとする概念です。次の3つの要素からなっています。

- 1、ネットワーク：人と人とのつながり
- 2、規範：「お互いさま」「有難う」という互惠性規範
- 3、信頼：人は信頼できるという「一般的信頼」と、知らない人よりも知っているほうがずっと信頼できるという「個別的信頼」

ソーシャルキャピタルの醸成には「ボランティア活動」などの市民活動が欠かせないようです。

## 8. 事例報告レジュメ 「エコマネーどんぐり」がつなぐふるさと活動 山田辰美

瀬戸川フォーラムの行っている「どんぐり」は、瀬戸川フォーラム内のコミュニケーションツールとして4年前のイベント内で参加者の増加と楽しみ、農家の参加（農産物）促進として始めました。意味も分からないままお遊び感覚で使ってみましたが、参加者や農家から大変喜ばれました。



会では次年度以降も継続する仕組みを検討して、瀬戸川の河川愛護活動をしている小学校や中学校に「どんぐり」を配布して活動に感謝の意を表しました。その「どんぐり」は「せと川フォーラム」において、無農薬栽培の手打ちそばや染飯おむすび、いなり寿司などと交換できる仕組みとしました。

今回のフォーラムでは様々な団体間の交流活動を通じて「どんぐり」が交換される場面も表れました。流域内の様々な団体を結ぶ、緩やかなネットワークを構成するツールとして交流通貨「どんぐり」をこれからも広めていき、流域内のふるさと活動のさらなる活発化を願い、流域の望ましい姿を考える場を提供していくつもりです。

エコマネーの勉強会における「どんぐり」の流通は96どんぐりでした。



## 9. 事務局まとめ

今回の勉強会で酒井先生より教えて頂いた「社会関係資本」のことについては、もう少し深めていきたいと思っております。

交流通貨「どんぐり」のさらなる普及活動の展開と社会関係資本の蓄積

瀬戸川フォーラムは、流域内のふるさと活動団体（環境保全、教育ボランティア、地域活性化など）の活動との積極的な連携を進め、「どんぐり」の循環を目指していきます。そのためにも「せと川フォーラム」の開催を通じて広く、交流通貨「どんぐり」のあたたかさを実感してもらおう機会を多くの人に体験してもらうことが必要と考え、来年度当初より積極的なPR活動を行っていきたいと考えております。

人とひとの絆づくり、信頼関係の構築にと「どんぐり」を有効なツールとして「社会関係資本」（ソーシャルキャピタル）の蓄積に生かしていきたいと考えております。

瀬戸川フォーラム エコマネー勉強会 事務局 小田

TEL0547-36-07065